

指導教員名	長坂泰之
-------	------

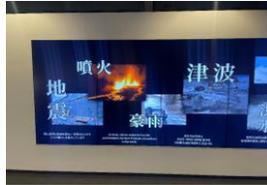
活動区分	地域活性化型	連携先	高梁者団体(高田まちなか会)
	高梁活性化型		
	情報分析型		

～ 高田まちなかビジョンを実効性あるものとするために(陸前高田市) ～ ～ 持続的経営と土地の利活用に向けて～

活動の様子



岩手県陸前高田市にある高田松原津波復興祈念館に展示されている被災した消防車



津波被災地の高田松原津波復興祈念館の展示



津波被災地の高田松原津波復興祈念館の展示

企画・活動概要

陸前高田市は、震災で街自体が壊滅して12年、中心市街地の事業者で組織される「高田まちなか会」が発足して5年が経過した。復興関係のハード事業がほぼ終了した今、まちなか会の会員は自身の店を、そしてこの街をどのように導いていくべきか、改めて考え決断しなくてはならない局面にある。流通科学大学の長坂ゼミと陸前高田市中心市街地の事業者で組織される「高田まちなか会」と共同で、アンケートの設計、実施、集計、分析、評価及びアンケート結果を受けての具体的な戦略を構築した(写真は、津波復興祈念館の展示、高田まちなか会のリーダーの方々)。



高田松原津波復興祈念から奇跡の一木松に向かう

経緯・背景・目的

目的は大きくは2つである。1つ目は、ゼミ生たちが幼少期に発生した東日本大震災で被災した三陸沿岸の複数の被災地の現状や復興の進捗状況を把握すること。2つ目は、現在大学生として津波被災地の復興にどのように向き合うことができるかを考え、被災地の1つである岩手県陸前高田市の一助となる。高田まちなか地区で街を活性化させるためのアンケート調査を、高田まちなか会の方々と共に実施すること。その結果を元に地域の復興及び地域の活気づけに向けた提案を行うこと。このことを通じて、被災地に寄り添い、思いやる気持ちの醸成、企画力の向上を目指す。



新しく整備された陸前高田市高田地区の中心市街地。ハードの整備が終わりこれからが正念場。

取り組む課題

陸前高田市は、震災で街自体が壊滅して12年、高田まちなか地区に最初の商業施設が開店して6年半、そして陸前高田市中心市街地の事業者で組織される「高田まちなか会」が発足して5年が経過した。復興関係のハード事業がほぼ終了した今、まちなか会の会員は自身の店を、そしてこの街をどのように導いていくべきか、改めて考え決断しなくてはならない局面にある。そのための検討材料の1つとして、陸前高田市中心市街地に来訪する市民や観光客に対する、アンケート調査を実施することとなった。本件は被災地陸前高田の復興に寄与するとともに、共に新たな陸前高田市を創り上げていく取り組みである。



高田まちなか会のリーダーの皆さんとのオンライン会議の様子

本学(学生)の役割

商学部の長坂ゼミのゼミ生は、陸前高田市中心市街地に来訪する市民や観光客に対する、アンケートの設計、実施、集計、分析、評価及びアンケート結果を受けての提案を作成した。具体的には、

1. アンケートの設計(現地と共同)
2. グーグルフォームでの回答フォーム作成(ゼミ生)
3. アンケート調査実施(現地と共同、ゼミ生は予算の関係で一部のみ現地入り)
4. アンケートの回答データの入力(ゼミ生)
5. アンケートの分析(ゼミ生)
6. 報告書作成(ゼミ生、教員修正)
7. 報告会での報告(遠距離のために本プロジェクトでは教員が報告)



流通科学大学長坂ゼミのゼミ生による市民アンケート調査の様子

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

まずは傾聴力であると考え。未曾有の災害の被災地、被災者の方々が、何に悩んでいるのか、何をしたいと思っているのか、そして私たちに何を伝えたいのかを、通常以上に丁寧に理解する必要がある。そのうえで、皆さんが進もうとする方向、企画しようとしているプロジェクトが、本当に必要なことなのか、費用対効果はどうかといったことを、正面から受け止め、考える必要がある。後者に限っては、指示を待つのではなく、自らやるべきことを見つけて積極的に取り組む「主体性」や、既存の発想にとらわれず、課題に対して新しい解決方法を考える「創造力」が身についたのではない。



流通科学大学と陸前高田市との調査票設計に関するオンラインでの会議。

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>



商学部
マーケティング学科
教授
長坂泰之(ナガサカ ヤスユキ)
【専門・担当科目等】
流通政策、商業まちづくり、
中小企業論

長坂ゼミは地域(まち)、企業(みせ)の経営を実践的に学んでいます。私たちは自らでは気づかない魅力がたくさんあります。同様に「まち」も「みせ」にも魅惑化してない魅力がたくさんあります。これらの魅力をどう高めていけばよいかを、実際に現地に飛び出して、方向性を考え、実行する実践的なゼミです。2年生後期から始まるゼミではカフェ経営に挑戦します。利益を出せるビジネスプランを計画し、目標達成に向けて活動します。このカフェ経営を通じて経営の楽しさや難しさを体感します。3年次以降も続く現場でのゼミ活用から得られることは無限大です。長坂ゼミは実践を通じて理論を学ぶ唯一無二のゼミです。

<関係者・企業等>

高田まちなか会
代表
小笠原修(オガサワラ オサム)

陸前高田市高田町の事業者たちで構成された「高田まちなか会」が市民や顧客とともに活躍・繁栄するまちなか地区とするため、まちなか地区の理想的な未来像を描いた中長期的なビジョンを策定した。今後はこのビジョンに基づき、魅力的なまちなかに向けて具体的な活動を行うために必要な情報を、今回の流通科学大学との連携プロジェクトで得たいと考えている。